

平成 30 年度第 26 回看護人間工学部会総会議事録

日時：平成 30 年 10 月 27 日（土）12：10～13:05（ランチミーティング）

場所：武庫川女子大学看護学部

司会：徳重 あつ子(敬称略)

総会参加者数 40 名、委任状提出者 19 名

I. 部会長挨拶

議事に先立ち、水戸優子部会長から、総会参加者数の報告と挨拶があった。

II. 議題

議案 1. 平成 29 年度の事業報告

西田直子総務担当から、以下の事業内容に関する報告があり、了承された。

- 1) 平成 29 年 11 月 11 日 第 25 回総会および講演・研究発表会（福井）
参加者 40 名、委任状提出者 27 名
- 2) 平成 30 年 3 月 看護人間工学研究誌第 18 巻 発刊
- 3) 随時 看護人間工学部会のホームページ随時更新

議案 2. 平成 29 年度会計報告

小林由実会計担当から資料 1 に基づき報告があり、了承された。

伊丹君和会計監査担当から、平成 29 年度会計監査報告が行われた。

議案 3. 平成 30 年度の事業案

西田直子総務担当より、以下の事業案について提案があり、了承された。

平成 30 年 10 月 第 26 回総会および講演・研究発表会（兵庫県西宮市）
会長 武庫川女子大学看護学部 徳重あつ子

平成 31 年 3 月 看護人間工学研究誌第 19 巻 発刊
看護人間工学部会のホームページ随時更新

議案 4. 平成 30 年度予算案

小林由実会計担当より、資料 2 に基づき、平成 30 年度予算案の説明があった。

後述の将来問題検討会についての審議の結果、予算案の項目名を一部修正し、改めて HP にて周知するというので、承認を得た。

議案 5. 看護人間工学部会の閉会と看護人間工学会（仮称）の設立について

1) これまでの経緯と本部会閉会と新団体の設立について

水戸優子部会長より、日本人間工学会と看護人間工学部会について、これまでの経緯が説明された。

- ・ 看護人間工学部会は、日本人間工学会の部会として設立されている。
- ・ しかし、現状としては日本人間工学会の部会としての条件が満たされていない。
- ・ 今年度初めに、日本人間工学会から、部会として存続する場合は条件を満たすこと、または別の団体として独立するよう、通知があった。
- ・ 役員内でメール審議を行ったところ、諸先生方から、部会として継続するのではなく、別の団体として、立ち上げるべきという意見をいただいた。

- ・事務局からのハガキにて、部会の会員全体に意見を求めたところ、賛同の意見（資料 3）を多くいただいた。
- ・したがって、本部会を 2019 年 3 月で閉会し、新たな学会として立ち上げたい。2019 年 4 月 1 日から看護人間工学会(仮称)として立ち上げるといふところの合意をいただきたい。

→看護人間工学会として閉会することについて、挙手により多数決をはかった。
全員の挙手があり、看護人間工学会の閉会が、承認された。



<総会で、看護人間工学会は閉会することについて承認された様子>

2) 看護人間工学会（仮称）設立に向けて検討すべき事項について

水戸部会長から新団体設立に向けて、検討を要する事項について、資料 5 を用いて説明があり、会場に意見を求め、随時、採決を行った。

<採決により決定した事項>

- ・看護人間工学会では、平成 30 年度末には、来年度用の繰越金として 1,188,076 円程度が残る予定である。この繰越金を新しい学会に寄付することが、挙手によって全員に承認された。
- ・設立の時期は、2019 年 3 月 31 日に閉会、4 月 1 日に新団体を設立することが、挙手によって承認された
- ・現部会の会員に対し、閉会をする旨を伝えると同時に、新たな団体をどういう理念をもって創っていくか告知し、現時点で新団体に入会するか意向を伺って仮会員となつていただく。今後は、仮会員に対して、新団体設立の議論を進めていく。新団体が立ち上がった暁には、仮会員にもう一度希望を聞き、正会員となつていただく。会場からの拍手によって承認を得た。

<会場からのご意見>

- ・看護という言葉の前に付けただけで、「人間工学会」という言葉を使っていいかについては、日本人間工学会へ確認を取る必要がある。
- ・この学会の位置づけ、理念、社会的責任を考えていく必要がある。それによって、団体名称、新規で募集する会員の数や、投稿論文数も予算も変わってくる。
- ・今の部会は人数としては小規模だが、将来的には会を発展させていきたい。それに向けて、どういう布石を打っていく必要があるかを考えた上で、新しい団体として出発していただきたい。
- ・部会の最終年度となる年度末で、まとめとなる会計報告をしていただきたい。

Ⅲ. その他

1. 会員数の動向

徳重大会長より以下の内容が報告された。

平成 29 年度末 会員数 110 名（うち名誉会員 6 名） 入会 9 名、退会 7 名

平成 30 年 10 月現在 会員数 108 名（うち名誉会員 6 名） 入会 4 名、退会 6 名

2. 役員について

徳重大会長から、現在の役員について報告があった。

<現在>

看護人間工学部会役員（任期：平成 29 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日まで）

部会長：水戸優子 名誉部会長：大河原千鶴子

総務：西田直子、中島佳緒里、樋之津淳子、小野保

渉外：高橋眞理、野崎真奈美

会計：小林由実、金壽子

会計監査：國澤尚子、伊丹君和

監事：村上生美、佐伯由香

HP 委員：箕浦哲嗣、小林由実

編集委員：田中美智子（委員長）、阿曾洋子、徳重あつ子、藤井徹也、長坂猛、宮本征一

以上の報告後、総会は閉会した。

引き続き、将来構想検討委員会について意見交換が行われた。

将来問題検討会について

- ・現部会の役員から、部会の今後について考える「将来問題検討会」を立ち上げる。
- ・総務担当の西田直子、中島佳緒里、樋之津淳子、小野保の 4 名と、部会長である水戸優子が中心メンバーとなって、部会の今後について骨子を作っていくことが提案され、会場から、会場全員の挙手により承認された。
- ・今年度の予算の中で、会議費等約 300,000 円を将来構想検討委員会で使用することが、会場全員の挙手により承認された。

以上。